

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	①	水産業の競争力強化	
	1	生産対策	
事業名	種苗放流事業		
担当課名	水産課	所属長名	石 司 泰 栄
関係課名			
事業の目的	水産資源の維持増大を図る。		
事業の内容	種苗放流を実施する町内の漁業協同組合に対し、種苗代の一部を助成した。		
事業の実績・取組状況	種苗放流を実施した町内の漁業協同組合に1,664千円を助成 アワビ稚貝放流：42,500個 助成額1,326,000円 サザエ稚貝放流：26,000個 助成額338,000円		
成果（できたこと）	漁協が予定していた種苗の放流が実施でき、放流貝の漁獲量の維持につながった。		
課題（できなかったこと）	全体的な漁獲量の増加が図られない。		
担当課評価	B	アワビ、サザエの漁獲量はここ3～4年ほぼ横ばいで推移している。著しい磯焼のため、資源の増加はなかなか図られないが、資源の維持のために放流は必要である。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	本事業の実施と並行し、餌となる藻場（海藻）の回復の努力を続ける。		
委員評価	B	水揚される貝のうち、放流貝が含まれる混獲率が高く、放流効果が出ていると感じている。若手の潜水業者も育っているため、今後も事業を継続すべき。（H28.07.21開催の新上五島町人口減少対策推進・検証会議で評価済み）	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	1 しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする
具体的な施策	ア 地域を支える産業の競争力強化
	① 水産業の競争力強化
	1 生産対策
事業名	網仕切り式藻場造成事業
担当課名	水産課
所属長名	石 司 泰 栄
関係課名	
事業の目的	町内における磯焼けは深刻な状態で、藻場の回復のための母藻の確保すら困難な状況となっているため、母藻の供給拠点の整備が必要である。仕切り網により食害を防止した海域において海藻の増殖を図り、母藻の供給基地とする。
事業の内容	母藻・種系の設置、仕切り網の交換清掃、食害動物駆除
事業の実績・取組状況	母藻・種系の設置・・・アマモ定植、ひじき・ホンダワラ類・クロメ・ワカメ設置 仕切り網の交換清掃・・・5回 食害動物駆除・・・ウニ駆除 1回（2日） 施設の維持管理費・・・2,997千円
成果（できたこと）	ワカメ、コンブといった一部の海藻については一定の生育が見られたが、ヒジキ、イソモク等のホンダワラ科やクロメなどは途中で消滅した。
課題（できなかったこと）	磯焼け海域に供給できるほどの海藻の増殖ができなかった。また、施設の維持管理を担っている栽培漁業推進協議会の人員が年度途中で減少したため、維持管理が不十分となってしまった。
担当課評価	C 一部の海藻については一定の生育が確認できたので、引き続き事業を実施していき母藻供給基地としての役割を果たせるように努力していく。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	食害動物の駆除の徹底。管理体制の充実が必要。
委員評価	B 藻場再生は、本町の漁業の重要な課題。網仕切り式藻場造成については、外敵駆除も併せて実施し継続すべき。なお、アワビやサザエの主なエサになる有用海藻を増やすことを目標にすべき。（H28.07.21開催の新上五島町人口減少対策推進・検証会議で評価済み）

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	①	水産業の競争力強化	
	1	生産対策	
事業名	磯焼け対策のための実証実験委託事業		
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳 哲也
関係課名	水産課・環境課		
事業の目的	磯焼けの大きな要因として考えられている貧栄養化について、栄養塩添加による藻場再生の実証実験により、藻場再生に取り組み、将来の漁業生産力の向上につなげたい。		
事業の内容	阿瀬津の海上に実験用筏を設置し、①同町汚泥再生処理センター由来の栄養塩施肥による海藻生長の促進について研究し、②赤潮などを引き起こさない、海洋施肥方法の安全性、ならびに③本海域での藻場再生において、栄養塩施肥以外に考慮すべき事項について検討した。		
事業の実績・取組状況	学校法人 創価大学と磯焼け対策のための実証実験に係る研究業務委託を締結 5,993千円 ○海藻（ノコギリモク）の幼体を培養システムに取り付け、その生長について周年を通してモニタリングした。 ○実験フィールド内の水質ならびに周辺環境の海藻を含む生物相について、原則週1回・月1回の調査を実施した。		
成果（できたこと）	①海藻培養システムの運転により、ノコギリモク幼体の生長を、無施肥条件と比較して有意に促進させた ②供給した生物膜透過水が赤潮を発生させず、かつ水質汚濁防止法で定められた排水基準（大腸菌群数）に適合し、安全性を確保できた ③海底への浮泥の堆積や藻食魚による食害の影響を考慮した対策を講じる必要性の確認がとれた		
課題（できなかったこと）	現在のところ、実証実験の段階であるため、町内全域にわたる磯焼け対策には進展していない。また、実際の事業化にはリントルの製造が必要であり、製造設備の整備が必要になる。		
担当課評価	B	年間を通して実証実験を行えた。また、サンプル調査も予定どおり実施できた。実証実験によって、成長の促進データの取得や栄養塩施肥の安全性の確認ができた。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	リントルの製造体制を整え、食害対策との連携により、実証実験から事業化に発展させる。		
委員評価	B	藻場再生は、本町の漁業の重要な課題。網仕切り式藻場造成については、外敵駆除も併せて実施し継続すべき。なお、アワビやサザエの主なエサになる有用海藻を増やすことを目標にすべき。（H28.07.21開催の新上五島町人口減少対策推進・検証会議で評価済み）	

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	1 しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする
具体的な施策	ア 地域を支える産業の競争力強化
	① 水産業の競争力強化
	1 生産対策
事業名	新水産業収益性向上・活性化支援事業
担当課名	水産課
所属長名	石 司 泰 栄
関係課名	
事業の目的	経営改善や新たな事業展開を目指す漁業者等への支援により漁業者の所得向上を推進するとともに、資源管理や漁場環境改善、生産流通基盤整備などの取組みを行う漁協、漁業者、グループ等に助成することにより、漁業所得や収益増に寄与する。
事業の内容	所得・収益増に繋がる機器や設備の整備費、漁場機能や生産力向上を図る事業費、生産流通基盤整備等の取組みにより漁村の活性化を図る事業費等に対する助成。
事業の実績・取組状況	町内3漁協に対し、15,137千円の助成を行った。 事業主体：新魚目町漁協（あご粉碎機・自動袋詰めシール機整備） 助成額：10,275千円 有川町漁協（小型レトルト機整備） 助成額：1,762千円 浜串漁協（製氷施設整備） 助成額：3,100千円
成果（できたこと）	各事業実施主体が予定していた機器等の整備を実施し、事業実施漁協の生産流通基盤の強化を図ることができた。
課題（できなかったこと）	各事業とも整備（完成）が年度末となったため評価が困難
担当課評価	B 各事業とも事業完成が年度末となったため、漁業所得・収益増に対する評価は今後の推移を見る必要があるが、生産流通基盤の強化にはつながっている。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	各事業とも漁協と組合員や漁業者の協力連携により、原漁の確保や利用率向上に努めることが、互いの収益・所得向上に繋がる。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	1 しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする
具体的な施策	ア 地域を支える産業の競争力強化
	① 水産業の競争力強化
	1 生産対策
事業名	産地水産業施設整備支援事業
担当課名	水産課
所属長名	石 司 泰 栄
関係課名	
事業の目的	水産業や漁村に対するニーズを踏まえた産地における所得の向上、地先資源の増大、漁業の6次産業化等の取組を推進することで水産業の発展及び水産物の安定供給を図る。
事業の内容	漁村において、漁業者団体、市町村、関係者からなる産地協議会により、「産地水産業強化計画」を作成し、所得の向上、地先資源の増大、6次産業化又は漁村の魅力向上に資する取組を支援する。
事業の実績・取組状況	H27年度の該当無し
成果（できたこと）	—
課題（できなかったこと）	新たな案件の掘り起こしができていない。
担当課評価	— ここ数年間は事業実績がないが、平成32年度に新魚目町漁協が「定置網作業船兼運搬船」1隻の整備を計画しており、今後新たな案件も含め、事業計画が具体的にになってきた場合は関係機関と連携の上、事業実現に向け努力していく。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	本事業への相談対応はもちろんのこと、漁業者や漁協等との日常のかかわりの中においても、支援可能な事業がないか注力し、水産業の強化を行う。
委員評価	— 事業実績がないことから、評価なしとする。

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1 しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする		
具体的な施策	ア 地域を支える産業の競争力強化		
	① 水産業の競争力強化		
	1 生産対策		
事業名	漁村再生交付金事業		
担当課名	水産課	所属長名	石 司 泰 栄
関係課名			
事業の目的	海水温の上昇や植食性魚類等による食害により海藻が消失し、磯根資源が減少している。本事業において、食害を防除する囲い網を施した藻場礁を設置することにより藻場を拡大し、藻場を餌場とする貝類及び、藻場を育成場とする魚類の増産を図る。また、漁民の高齢化に対応した近距離漁場の造成を行い、併せて漁家所得の向上を図る。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁場造成 1ヶ所・1,600空m³ ・ 藻場造成 5ヶ所・25,000m² ・ 海藻増殖 5ヶ所 		
事業の実績・取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藻場造成 2ヶ所（一部設置） ・ 海藻増殖 2ヶ所 国庫補助事業 65,213千円（H27年度現年分 44,399千円、繰越明許分 20,814千円）		
成果（できたこと）	漁場環境の改善につながった。		
課題（できなかったこと）	・ 藻場造成 2ヶ所の工区完成が出来なかった。		
担当課評価	C	現地調査の結果、基礎となる自然石は計画時よりも大きなものが必要となり、事業費が不足し、完了に遅れが生じた。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	基本計画を変更し、事業費の確保に努める。		
委員評価	C	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	①	水産業の競争力強化	
	1	生産対策	
事業名	離島漁業再生支援交付金事業		
担当課名	水産課	所属長名	石 司 泰 栄
関係課名			
事業の目的	離島漁業の再生を図るため、漁場の生産力向上のための取組みや漁業の再生のための実践的な取組みを行う。		
事業の内容	漁場の生産力の向上のための取組み（種苗放流、管理・改善、産卵場・育成場整備、漁場監視等） 漁業の再生のための実践的な取組み（新たな漁法、新規漁業・養殖業着業、販路拡大）		
事業の実績・取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁場の生産力の向上のための取組み（種苗放流、ウニ駆除、イカ柴設置、密漁監視など） ・ 漁業の再生のための実践的な取組み（貝養殖、海藻の増・養殖、タイラバ・曳縄・活きエサ釣りなど） 助成額：129,606千円 		
成果（できたこと）	イカ柴設置などにより水産資源の維持に寄与している。また、漁業者の実践意欲につながっている。		
課題（できなかったこと）	実証実験的に取り組んだ事業の成課を基にした新たな養殖漁業への着業、新たな漁法への着業が確かなものとなっていない。		
担当課評価	B	種苗放流やイカ柴設置などにより水産資源の維持に寄与している。また、漁業の再生のために計画された取組みに真剣に向き合う漁業者がいる反面、日当・備船料等短期的な収入に目が行きがちな点もある。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	事業の目的を再確認し、後継者の育成や中核となる漁業者を支えるための取組みに事業費を集中的に配分するなど、大胆な事業展開ができないか指導助言を行っていく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	①	水産業の競争力強化	
	2	経営・流通・販売対策	
事業名	漁業近代化資金利子補給事業		
担当課名	水産課	所属長名	石 司 泰 栄
関係課名			
事業の目的	経営コストを軽減させ漁業経営の安定に寄与する。		
事業の内容	漁業近代化資金制度に係る借入金の利子の一部を助成する。		
事業の実績・取組状況	漁業近代化資金利子補給補助金 19件 補助金額 610千円		
成果（できたこと）	漁業経営のコスト削減に繋がり、経営の安定化に寄与した。		
課題（できなかったこと）	漁業者の減少防止になかなか繋がらない。		
担当課評価	B	漁業近代化資金制度を利用する漁業者は中核的な漁業者であるため、借入金の利子の一部を助成することにより経営の安定に寄与できた。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	助成件数が減少となるようであれば、施策内容などの検討を行い、中核的漁業者の育成に力を入れる必要がある。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	1 しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする
具体的な施策	ア 地域を支える産業の競争力強化
	① 水産業の競争力強化
	2 経営・流通・販売対策
事業名	漁船保険加入促進事業
担当課名	水産課
関係課名	所属長名 石 司 泰 栄
事業の目的	水揚げの減少、魚価の低迷など漁業経営の環境が厳しい中、漁船損害保険加入に係る保険料の一部を助成することにより、漁業者の負担を軽減し経営の安定化に寄与する。
事業の内容	漁船損害保険に加入する漁業者に対し、保険料の一部を助成する。
事業の実績・取組状況	管内7漁協 補助対象漁船数 684隻 補助金額 4,081千円
成果（できたこと）	漁船保険に加入する漁業者の負担が軽減された。
課題（できなかったこと）	漁業者の減少防止になかなか繋がらない。
担当課評価	B 漁船損害保険に加入する漁業者は中核的な漁業者であるため、保険料の一部を助成することにより経営の安定に寄与できた。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	助成件数の減少などにより全体予算が減少となるようであれば、補助率を上げるなどの検討を行い、中核的漁業者の育成に力を入れる必要がある。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	1 しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする
具体的な施策	ア 地域を支える産業の競争力強化
	① 水産業の競争力強化
	2 経営・流通・販売対策
事業名	漁船用燃油高騰対策事業
担当課名	水産課
関係課名	
所属長名	石 司 泰 栄
事業の目的	漁船の燃料である燃油の高騰により出漁を控える漁業者に対して、燃油購入費に対する助成を行い、漁業者の経営の安定と水産物の安定供給を維持確保する。
事業の内容	漁船用燃油であるA重油及び軽油の購入費に対し1リットル当たり10円を助成する。
事業の実績・取組状況	申請件数832件、実人数304名 補助金額20,989千円
成果（できたこと）	漁業者の経費削減に繋がり、経営の安定化に寄与した。
課題（できなかったこと）	漁業経営セーフティーネット（国と漁業者が積み立てた基金から燃油高騰時に一部補填する）制度への加入が進んでいない。
担当課評価	B 十分ではないが漁業者の経費削減に繋がり、経営の安定化に寄与できたが、セーフティーネット加入の促進が図られなかった。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	省力型の漁船や機関への転換に対する助成制度の情報提供や周知の努力。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	ア	地域を支える産業の競争力強化	
	①	水産業の競争力強化	
	2	経営・流通・販売対策	
事業名	離島輸送コスト支援補助事業（魚介類）		
担当課名	水産課	所属長名	石 司 泰 栄
関係課名			
事業の目的	離島地域における輸送コストの直接支援を実施することにより、輸送コストの低廉化を実現し、本土との価格差の是正、離島産品の売上高の増大を図り、もって本町の産業の活性化と雇用の拡大を図る。		
事業の内容	離島から本土への魚介類の移出に係る輸送費および、本土から離島に養殖用の飼料・餌料の移入にかかる輸送費の2/3の経費を補助する。		
事業の実績・取組状況	7漁協・9養殖業者に対し、189,773千円を補助した。 全体事業費（事業者負担を含む） 284,888,445円 移出に対する町補助金 118,595,000円 移入に対する町補助金 71,178,000円		
成果（できたこと）	16名の新たな雇用に繋がった。（正規職員10名・臨時職員6名）		
課題（できなかったこと）	なし		
担当課評価	A	本事業実施により、目標を上回る雇用者数の確保が図られた。また、設備投資の拡大や、福利厚生施設の充実、更には売り上げの増にも繋がった。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	本補助金によって、本土との格差の是正、売上高の向上、雇用の拡大に繋がった。製品のブランド化による価格の高価や、新たな販路の開拓等の対策が必要である。		
委員評価	A	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。